

1 旧荘家住宅座敷棟（きゅうしょうけじゅうたくざしきとう）

(1) 所在地 真庭市下皆部（しもあざえ）664

(2) 所有者 里山アグリ株式会社

(3) 概要

旧荘家住宅は、元禄11（1698）年に下皆部村に移り住んだ荘家の元居宅である。荘家は、江戸時代を通じて下皆部村の庄屋を勤めた。

伯雲往来（はくうんおうらい）沿いの入母屋造（いりもやづく）り棧瓦葺（さんがわらぶ）き座敷棟（ざしきとう）で、残された棟札から、文政8（1825）年に建築されたことがわかっている。

内部は土間に二列四室を並べ、東庭を臨んで続き座敷とする。二階は背面側に続き座敷を配する。外壁は大壁（おおかべ）造り漆喰塗りで重厚にみせ、街道沿いの景観をつくる。

(4) 登録基準

一 国土の歴史的景観に寄与しているもの



位置図

(写真)

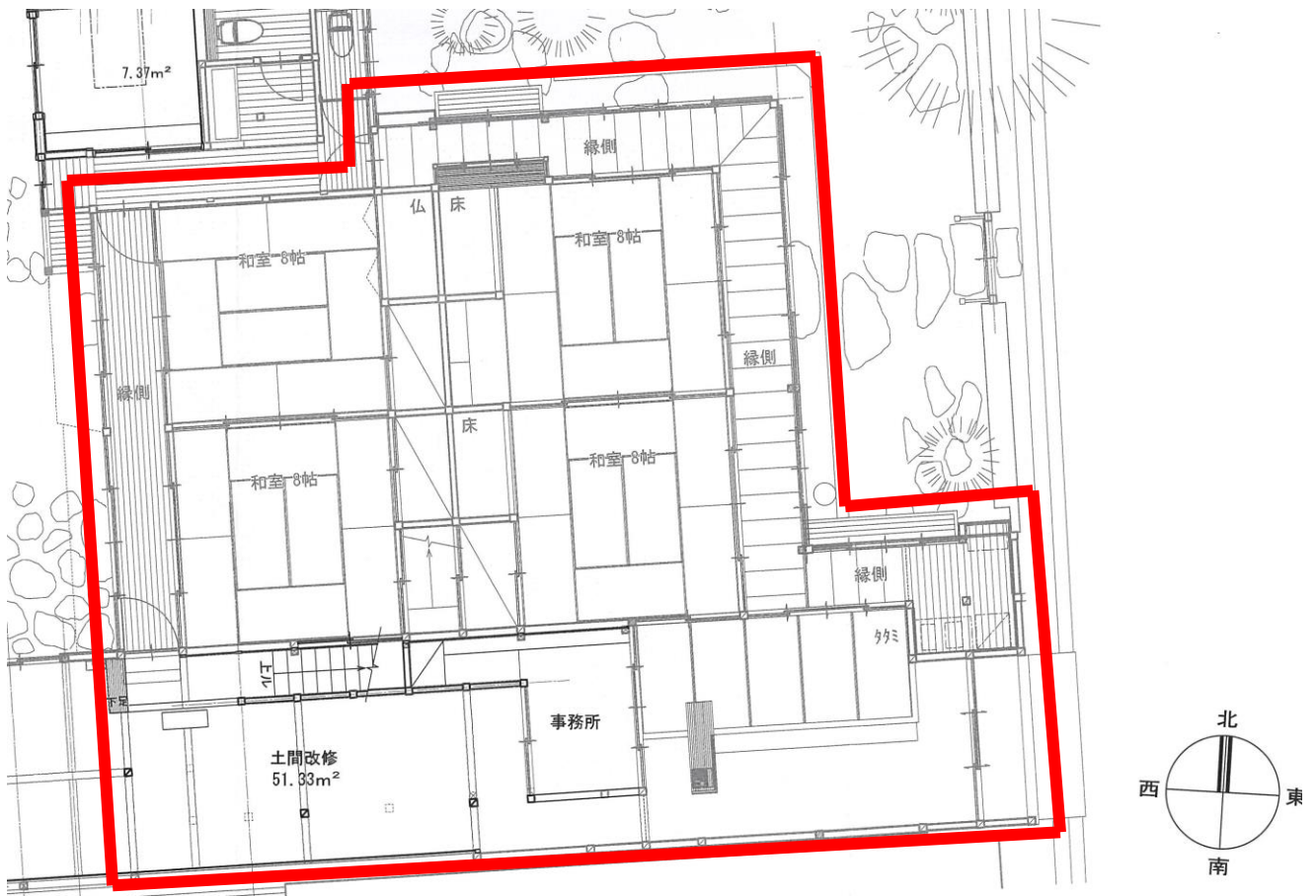


旧荘家住宅座敷棟外観



旧荘家住宅座敷棟内部状況

(平面図)



朱線で囲まれた部分が登録される建物の範囲

【用語解説】

- 伯雲往来（はくうんおうらい）：現在の高梁市から鳥取県の大山へ抜けていく大山街道のこと。
- 入母屋造（いりもやづく）り：寄棟造の屋根上部に切妻の小屋根を合わせたような形状の屋根の造り。
- 棧瓦葺（さんがわらぶ）き：棧瓦（横断面が波型の瓦。本瓦に比べて経済的である）で葺いた屋根のこと。
- 大壁（おおかべ）造り：柱の表面を板張りや塗り壁などの仕上げ材によって覆い、柱を見え隠れにする造り。